

太田川橋架設工事報告要旨

建設省太田川工事事務所 坂 本 正 美

○ 末 極 司 朗

太田川橋は広島県安佐郡佐東町～可部町2級国道広島～松江線、太田川の上流16軒計画洪水流量 $5,300\text{ m}^3/\text{sec}$ 河床勾配 $1/450$ 玉石交り砂利層の地質に架設される長大橋である、概地質の改修工事の進捗に伴い、建設省直轄として、河川改修費及び管理者負担金の合併施工にて昭和28年度より着工、31年度に竣工の予定である。

下部工事は現橋が13m上流にあり交通量の増大($2,000\text{ 台/日}$)及び多年の出水に依り不等沈下偏心等起している為、其の他力学的見地より橋脚4基簡易灌函工法、橋台2基は井筒工法にて昭和29年度に竣工した。(下部工々事報告は30年度中土木学会講演会で発表済)

上部工事は5径間連続で橋長323.1m 巾員9.0m 支間割の比率は5:6:8:6:5で中央径間及び側径間に吊桁を有して居る下路式ハンガーゲルバートラスである。

本橋の工場製作は昭和30年11月より31年5月末、架設は31年4月より梅雨期及び台風出水期を狭み、9月迄となった為製作計画及び架設計画には其の與非常に留意し又碇着桁部の応力は吊桁部の有無により部材応力が著しく変化し、一径間毎に所定の反りに修正維持することが不能であり鉋鉄計画においても相当の無理を生じたが9月30日85,300本の現場鉋鉄も終らした。床版工事は応力、反り等関連した問題も続出し、単橋橋よりも其の施工時に困難な作業方法ではあるが、目下打設に鋭意施工中である。

本報告により大方の御批判、御指導を賜りたい。